

第 52 回 世界遺産検定 マイスター試験
講評 および 学習方法

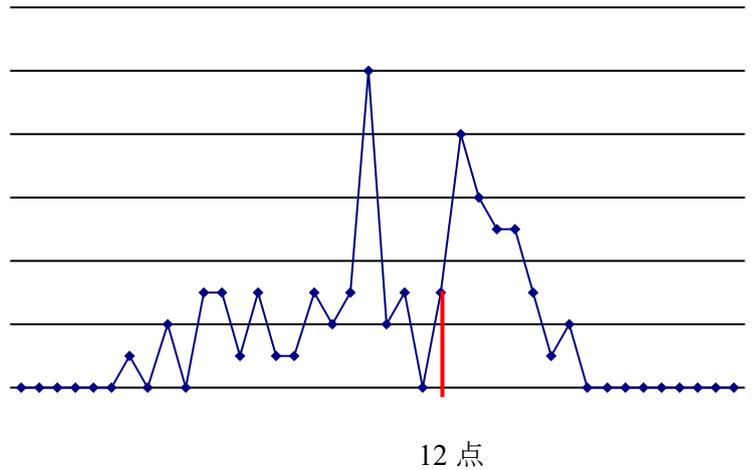
1. 実施概要 2. 認定点と分布 3. 問題 4. 総評 5. 各問の短評と学習法

1. 実施概要

検 定 日：2023 年 7 月 2 日（日）
検定会場：東京・名古屋・大阪
検定時間：120 分
解答形式：論述形式（記述）
申込人数：74 名
受検人数：71 名
認定者数：32 名（認定率 45.1%）

2. 認定点

認定点：12 点（20 点満点）
最高点：15.5 点
最低点：3.5 点



3. 問 題

- 1 次の語句を簡潔に説明しなさい。
1. ビューロー会議
 2. 登録基準
 3. 奈良文書

- 2 世界遺産条約について、次の語句をすべて使って、400 字以内で説明しなさい。なお、解答中の次の語句の使用箇所には下線を引きなさい。
- | | |
|--------|-----------------|
| 国際的援助 | 従来とは異なる新たな破壊の脅威 |
| 教育事業計画 | ユネスコ |

- 3 『古都奈良の文化財』の平城宮跡を横切る近鉄奈良線の遺跡外への移設が、2021 年に鉄道事業社と奈良県、奈良市の間で合意された。しかし 2023 年 4 月、奈良県に新知事が就任し、当該事業の予算執行が停止となった（2023 年 5 月時点）。鉄道移設は遺産の景観保護と、踏切改良による近隣の渋滞解消が目的であったが、総事業費として約 2,000 億円が見込まれる大規模事業であった。この鉄道移設事業についてどのように考えるか、鉄道移設に対する賛否を示したうえで、その根拠や具体的な事例、比較となる世界遺産の例を挙げながら、1,200 字以内で論じなさい。

4. 総 評

前半の 1 はよく準備されていたが、2 で「国際的援助」や「教育事業計画」などを羅列しているだけの人や、「ユネスコ総会で採択された」というように、語句の内容を示さずに指定語句を用いているだけの人も少なからずおり、点数に差が出た。3 では、鉄道移設事業について、賛成や反対の根拠が実態に即したものであるのか、机上の理論になっているのかで点数に大きく差が出たため、合計点でも得点分布が歪なものになった。比較的答えやすい内容であっただけに、より具体性をもった論理展開が必要とされたと言える。

5. 各問の短評と学習法

1

短評：それぞれの語句を約 50 文字以内で説明する問題。「登録基準」では、顕著な普遍的価値を評価するためのものである点と、作業指針の中で定められている点、10 項目からなる点などのうち 2 つほどを組み合わせると、簡潔で分かりやすい説明になる。語句の説明を要素に分解し、どれを組み合わせるとわかりやすいか 2 つほどに絞って、試験対策の時から意識して考えておくことが大切である。

学習法：このように少ない文字数で要約する場合、ポイントとなる語句をはずさないようにする。間違っていないが本質ではない点をいくら並べても説明としては不十分なので、学習の際には、**それぞれの語句の最重要ポイントがどこであるかを考えながら、キーワードを正しくつかむ**ことが重要である。

2

短評：指定語句を用いて重要なキーワードを説明する問題。指定語句を羅列しただけの解答がまだ目についた。「従来とは異なる新たな破壊の脅威」とは具体的にどのようなものなのか、「教育事業計画」はなぜ必要なのかということが説明されていないと、世界遺産条約の深い説明とはならない。しかし、「新たな破壊の脅威」の説明でロシアによるウクライナ侵攻を用いるのは、時代背景的にも状況が異なるため追加の説明が必要になる。ウクライナの事例を用いてもよいが、限られた文字数の中で使用するには難しいため、全体的に不十分な説明になってしまった解答もあった。

学習法：書く前に必ず**全体のプロットを作る**必要がある。「世界遺産条約」を説明するのに必要なキーワードを書き出し、それを組み替えながら全体のプロットを考える。問題中の**使用指定語句は、どのような解答が求められているかのヒント**であるといえる。学習の段階では、重要語句のキーワードやポイントを抜き出しておくといよい。また「世界遺産条約」の意義や目的、採択の背景なども理解し、それを限られた文字数と指定語句の中に加えられるよう、自分なりのまとめなおしが必要である。そのためには、**文章ではなく語句で覚えて**おき、問題に合わせて語句を組み合わせるようにするのが重要である。また、指定文字数の 8 割を書かないと減点の対象となる。

3

短評：大前提として、問題文に「賛否を示したうえで」と書かれているので、解答者自身の賛否を明確にして論を進めなければならない。賛否を明確にしていない解答や、「●●の点で賛成であり、××の点では反対である」といった解答は、問題の指示に従っているとは言えず、点数が低くなった。マイスターの問題は、表面的な一般論を答えさせることが試験の目的ではない。また今回は遺産や景観の保護と事業費用、地域住民の生活など、どの立場に立つのかで解答内容が異なるため、理想論や机上の空論になってしまっているものは、論述試験の解答としては不十分である。普段から自分の意見をしっかり持つようにすることが有効な対策になる。

学習法：1,200 字というかなり長い論述問題の場合は、書き始める前に必ず**全体のプロットを作る**必要がある。その時に、**序論・本論・結論のスタイル**にするのか、まず**結論を書いてから後で説明するスタイル**にするのか決め、全体を見ながら、それに沿うようにキーワードなどの箇条書きでプロットを作る。それに肉付けする形で、書き上げてゆく。世界遺産条約から大きく外れた出題はないので、ある程度共通して使える要素も準備しておくといよい。論述問題では「**正解**」というものはない。いかに自分の意見を論理的に述べられるかが高得点の鍵となる。当然、**自分の考えを述べる時には、思い込みではない正確な情報で根拠を示す**必要がある。文字数指定があるので、最低でもその 8 割は必ず書くようにする。